

栄養茨城

FLASH No.16

発行日／平成30年3月19日

発行所／公益社団法人 茨城県栄養士会

〒310-0034 水戸市緑町3-5-35

茨城県保健衛生会館内

TEL 029-228-1089 FAX 029-228-4271

<http://www.ibarakiken-eiyoushikai.or.jp/>

CONTENTS

会長あいさつ、役員選出 受賞おめでとう	P1	「嘔む・飲み込むが難しい人のための のかんたんレシピ」、「介護食・嚥下 食取扱薬局情報リーフレット」作成 について	P7
栄養ケア活動・糖尿病性腎症 重症化予防プログラム	P3	研修会報告、栄養士会入会の 各専門研究会員の職場紹介	P4~6
		すすめ	P8



会長あいさつ

公益社団法人茨城県栄養士会会長
政安 静子

日頃から、公益社団法人茨城県栄養士会という団体は、何をすべきかを自問自答しています。会員のサポートは勿論ですが、健康づくりに必須である食事・栄養の専門職種として県民の健康寿命の延伸に、寄与することであると考えます。そのため、平成26年度から3年間厚生労働省からの補助を受け「栄養ケア活動」を発展的に推進し、これらの事業に携わる管理栄養士の質の均一化を図るため、研修（講義・演習）を重ね、「いばらき栄養支援管理栄養士」98名を育成・登録しました。これらの人材を生かし、県保健予防課からの受託事業である「糖尿病の重症化予防栄養ケア事業」と県長寿福祉課からの受託事業である「高齢者栄養ケア推進事業」、東海村からの「東海村食生活改善指導事業」など、各事業に精力的に取り組んできました。

なお、厚生労働省の「栄養ケア活動支援整備事業」につきましては、平成30年1月、厚生労働省のウェブサイト「あなたの栄養と食生活のアドバイザー 管理栄養士を知っていますか？」に茨城県栄養士会の活動内容が掲載され、活動の一部が報告されています。また、各事業の報告書は事務局に保管してありますので、是非ご高覧下さい。

大井川和彦知事の政策ビジョン「新しい茨城づくり」には、『健康長寿日本一』への挑戦として、「茨城型地域包括ケアシステムの推進」「認知症予防対

策」「健康増進、就労・地域貢献活動支援」が示されました。これらの活動すべてにおいて、管理栄養士・栄養士が係わる栄養ケア活動は必要不可欠のものとなり、今までの活動をより強固なものにする必要があります。さらに、来年度は「認知症予防プログラム作成事業」も新たな事業として加わります。多くの会員さんと力を合わせて取り組みたいと考えていますので、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

定時総会役員選出

平成29年5月25日(木)茨城県立県民文化センターにおいて、公益社団法人茨城県栄養士会第6回定時総会並びに日本栄養士連盟茨城県支部通常総会が開催されました。その折、役員の変更が行われ、次の通り選出されました。(文責 高野 佑子)

公益社団法人 茨城県栄養士会

会長 政安 静子
常務理事
総務部長 須能 恵子
組織部長 山口 雅子
事業部長 井上 幹枝
学術部長 岡 純子
広報部長 関 清美

日本栄養士連盟 茨城県支部

名誉支部長 政安 静子
支部長 高橋 征子
副支部長 矢代 あや子
副支部長 山崎 みち子
幹事長 佐藤 満子
財政部長 佐藤 満子

受賞おめでとう

永年の栄養士活動が認められ、平成二十九年度表彰された方々をお知らせします。(敬称略)

大臣賞・知事賞・保健福祉部長賞

茨城県功績者表彰受賞者



茨城県栄養士会
政 安 静 子

栄養関係功労者 厚生労働大臣表彰受賞者



茨城県立中央病院
大 島 高 子

・栄養指導業務功労者

学校給食 文部科学大臣表彰受賞者

〔団体〕
日立市立宮田小学校
大洗町立南中学校

茨城県知事感謝状受賞者

・第六回定時総会

筑西市健康づくり課

稲 川 三枝子

・県民健康づくり表彰式

茨城キリスト教大学

井 川 聡 子

茨城県保健福祉部長 感謝状受賞者

・第六回定時総会

ひたちなか市健康推進課

山 口 雅 子

湖南病院

中 山 俊 子

・県民健康づくり表彰式

特別養護老人ホーム飛羽ノ園

関 清 美

地域活動(筑西市)

糸 澤 由布子

介護老人保健施設

ひだまり倶楽部

乙 木 久美子

地域活動(守谷市)

中 村 弥 生

日本栄養士連盟茨城県支部活動

平成29年度茨城県栄養士連盟は、県知事・衆議院議員選挙に尽力することが出来ました。

知事選は、当時現職橋本昌氏に新人大井川和彦氏が挑戦しました。大井川和彦氏擁立は日本栄養士連盟、日本自由民主党本部・県連支部からの依頼・指導がありましたので、役員会議を開催し応援することになりました。役員は、出陣式・講演会参加、選挙事務所訪問による情報収集、会員等への電話による協力依頼等を展開し、大井川現知事誕生に尽力出来ました。

知事は栄養士・管理栄養士の身分の向上の鍵を握っています。例えば、栄養教諭・県職員管理栄養士上級試験、事務局長給料500万円等の実現は知事の判断と県会議員の応援で実現出来ました。

しかし、連盟活動を評価しないで「連盟に入るな」「協力するな」等と指示している者がいることを知り大変残念です。栄養士職を護り、発展向上させるための規則や法律改正は議員の賛成がなければ議会を通すことが出来ません。議員は連盟会員数で評価します。そのためにも連盟会員に入会し未来のより良い栄養士職の実現に尽力しませんか。

(文責 高橋 征子)

業務用食材の総合商社



水戸本店	茨城県水戸市元吉田町 1077-2	TEL 029-304-2555
つくば支店	茨城県土浦市卸町 2-9-16	TEL 029-842-2001
北関東支店	茨城県筑西市伊讚美 1937-1	TEL 0296-28-8020
東関東支店	千葉県富里市七栄 532-239	TEL 0476-91-2525
埼玉支店	埼玉県加須市北平野 770-1	TEL 0480-78-1321

賛助会員の活動一覧

◎商品展示	総会 栄養健康改善学会 給食施設調理従事者研修会 茨城栄養学術講習会	25社 7社 3社 2社
◎新春懇談会	参加 商品協力	21社 28社
◎広告バナー		8社
◎広告掲載	総会資料 栄養茨城(フラッシュ) パンフレット	3社 3社 4社
◎広告チラシ		1社

管理栄養士による地域における 栄養ケア活動について

高齢化が急速に進んでいる中で、生活習慣病などの発症により在宅療養者・居宅要介護者が増加していることから、相談者の生活に沿った栄養ケアが求められています。

この度、厚生労働省は、管理栄養士・栄養士の役割について広く国民に周知し、地域における栄養ケア活動の推進を図るために、「あなたの栄養と食生活のアドバイザー 管理栄養士を知っていますか？」（報告書）を公表しました。

平成24年度からスタートした厚生労働省の補助事業である「栄養ケア活動支援整備事業」に取り組んだのは、全国で15都府県栄養士会です。その中から、本県を含めた4府県栄養士会の活動現場が取材されて、地域での特徴的な栄養ケア活動の状況が報告されています。

本会の活動状況では、東海村食生活改善事業や薬局との連携を含めた訪問栄養食事指導、簡易型自記式食事歴法質問票（BDHQ）を活用した栄養相談等が紹介され、事業協力者・参加者の声や栄養ケアの個別事例も掲載されています。

下記のサイトにアクセス、又は本会のホームページからリンクして閲覧できますので、皆様是非ご覧ください。

今後も、管理栄養士・栄養士のスキルの向上を図り、県民への栄養ケア・ステーションの取組みに対する認知度を高め、地域における栄養ケア活動を進めていきましょう。（文責 綿引 久子）

<http://www.mhlw.go.jp/iken/after-service-2018.01.09.html>

健康で美しく。免疫ライフ創造パートナー



Yakult

水戸ヤクルト

茨城県糖尿病性腎症重症化予防 プログラムについて

本県の糖尿病患者数は、平成25年国民生活基礎調査によると12万4千人と推計されており、新規透析導入患者数は818名、うち416名（50.9%）が糖尿病性腎症を原疾患としており、全国（43.7%）と比較しても高い傾向にあります。

国は、糖尿病性腎症重症化予防の推進のため、日本医師会、日本糖尿病対策推進会議、厚生労働省の3者で連携協定を締結し、さらに、対策を具体的に進めていくため、「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を策定しました。この中で、各都道府県の実情に応じたプログラム策定の必要性や関係者の役割が示されています。

このような状況を踏まえ、県では「茨城県糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を策定しました。概要及び対象者の基準等は以下のとおりです。

（文責 海老澤 加奈）

プログラムの概要 糖尿病性腎症重症化や腎不全、人工透析への移行を防止することを目的とし、保険者が医療機関と連携して、糖尿病が重症化するリスクの高い未受診者・受診中断者に対する受診勧奨や、治療中患者への保健指導を行います。

受診勧奨対象者（未治療者・治療中断者）

- ①空腹時血糖126mg/dl（随時血糖200mg/dl）以上又はHbA1c 6.5%以上の者。
- ②過去に糖尿病治療歴がある者で、直近1年間において糖尿病受療歴がない者。
- ③過去3年間程度の健診データにおいて空腹時血糖126mg/dl（随時血糖200mg/dl）以上又はHbA1c 6.5%以上が確認されているが、直近1年間において健診受診歴や糖尿病受療歴がない者。

保健指導対象者

- ①空腹時血糖126mg/dl（随時血糖200mg/dl）以上又はHbA1c 6.5%以上を満たす者のうち、次のいずれかに該当する者。
 - ・尿蛋白（±）以上
 - ・血清クレアチニン検査を行っている場合、eGFR60ml/分/1.73m²未満
- ②最近1年間に糖尿病受療歴がある者。なお、次のいずれかに該当する者は除く。
 - ・1型糖尿病の者及びがん等で終末期にある者。
 - ・生活習慣病管理料糖尿病透析予防指導管理料等の診療報酬における加算の算定対象となっている者。
- ③その他、保険者又は医師が必要と認める者。

私たちの職場紹介 = 病院編 =

国家公務員共済組合連合会

水府病院 栄養科 野上 久美子



当院は一般病棟と地域包括病棟を合わせた127床の中小規模病院です。栄養科は直営で運営されており現在管理栄養士3名、調理師5名、補助員2名で業務を行っています。

— 栄養士の活動内容 —

【給食管理業務】

・栄養科では入院患者さまの疾病治療と健康復帰を目的とし、「安全で満足できる食事の提供」をモットーに食欲のない患者様に一口でも召し上がっていただくための食事の提供を心がけています。



◎写真は病院給食人気のセレクトメニューです。ラーメンや手作りの太巻き寿司はお年寄りにも人気があります。

【外来・入院食事栄養指導】

・栄養指導では主に生活習慣病や慢性疾患の患者さまの栄養指導を行っています。患者さま一人一人を対象とした個別指導はそれぞれのライフサイクルや環境に合わせた食事療法を中心とし、必要に応じ運動療法も加え的確なアドバイスで健康回復、健康増進を目指しています。平成28年度診療報酬改定において新たに加わった栄養指導項目＝がん治療食・嚥下障害食・低栄養改善食については医師、外来及び

施設の概要

昭和27年7月、水府病院は水戸市の中心地（水戸市大町）に開設されました。その後、平成12年12月、現在地（水戸市の赤塚駅北口ミオス内）に移転しました。JR赤塚駅と結ばれ、市営の立体駐車場にも連結されています。

診療科：内科・外科・整形外科・小児科

病棟看護師との連携を図り、患者さまの合併症の発症予防や進展防止に向けて従来の栄養指導対象項目に追加し、栄養指導を実施しています。

さらには、水府病院の理念のもとに、栄養指導の枠を地域に広げ、診療所、クリニック、老人介護施設など管理栄養士不在の施設において栄養指導を必要とする患者さまの受け入れを行い、地域における栄養指導を強化していきたいと考えています。



【病棟栄養管理業務】

・栄養管理業務では、NST・褥瘡回診を実施しています。医師、管理栄養士（専従）、看護師、薬剤師、検査技師、リハビリテーション科などの専門職がそれぞれの専門知識と技術を生かし、職種や診療科間の垣根を超え、



患者さまを中心としたよりよい医療サービスを実施していくことを目的とし、栄養サポートチームの活動を行っています。

私たちの職場紹介 = 勤労者支援編 =

陸上自衛隊 古河駐屯地 栗原 亜友美



一 栄養士の活動内容一

私は平成25年4月より勤務しており、今年度で5年目になります。まず勤務当初は、自衛隊の特殊な？用語が分からなかったり、環境に慣れるまで苦労しました。また毎日朝礼時には自衛隊体操をして1日が始まります。気を付け、回れ右などは日常となっています。



(宮城県) 油麩丼、笹かまぼこ、白玉ずんだ和え↑
毎月1回各都道府県のご当地メニューを提供。POPでアピール！



携行食の一部↑



野外炊事の様子↑

施設の概要

県内には、勝田、土浦、霞ヶ浦、古河の4つの陸上自衛隊が所在しています。駐屯地の特性や役割はさまざまです。各駐屯地には、管理栄養士が1名配置され自衛官の栄養管理を担っています。

私の仕事は、駐屯地内の食堂の給食管理がメイン業務です。自衛隊給食は365日3食の完全給食であり、その献立を考えています。栄養管理の一部をご紹介します。エネルギー3,200kcal、カルシウム800mg、食物繊維24.0g以上です。隊員にはカレーは人気メニューで、牛すじカレーは古河イチ押しの絶品です。牛すじがとろとろで柔らかいと好評です。隠し味に砂糖、牛乳、生クリーム、焼肉のたれを入れています。

また、野外給食もあるのが自衛隊の特徴です。野外給食とは駐屯地の食堂以外で喫食することで、携行食（調理済みのレトルトパックや缶詰め等）、野外炊事などがあり、訓練時の食事はこれにあたります。野外炊事の献立作成もあり、訓練状況や調理能力に応じた食事の提供が求められるため、訓練担当者との綿密な調整が必須です。そして野外での調理ということもあり、直接現場に同行して衛生管理のチェックも行います。災害派遣対応は、常総市の水害が初めてでした。喫食人員の増加や携行食の支援など、部隊との連携や調理員との信頼関係が大切だと感じました。この経験を今後活かしたいです。

食事は隊員にとって楽しみの1つです。栄養の補給と共に、満足度の高い給食が部隊や隊員の士気向上に直結します。そのため、これからも自分の職務に対して自覚と責任をもって業務に励んでいきたいです。



私たちの職場紹介 = 学校編 =

笠間市立友部中学校 小山 恵

施設の概要

本校は、昭和46年4月に創立され、今年度で創立46年になります。「ゆたかに 正しく たくましく生きよう」を校訓に、「自分らしい個性を伸ばし、明るい未来の創造に貢献できる人間の育成」を教育目標として掲げています。現在は生徒627名、教職員43名が在籍しており、7名の調理員で安全で安心なおいしい給食づくりに努めています。

【献立について】

月・水・金曜日にはごはん、第1・3週の火曜日にはソフトめん、木曜日にはパンが主食として提供されます。お米は、笠間市で収穫されたコシヒカリを使用しており、笠間学校給食センターで炊飯したものが市内の各学校に配送されます。月に1度、わかめごはんやごま菜飯、彩りごはん、黒米などの混ぜごはんも提供されます。

【食に関する指導について】

各学年の発達の段階に応じた食に関する指導の充実を図るため、食に関する指導全体計画、年間指導計画に沿った取組を行っています。毎日の残量調査や食生活アンケートから生徒の実態を把握し、学級担任を対象に、給食時の指導の際に問題に感じていることや改善したい点はないかアンケート調査を行い、学級の実態に即した内容を担任と連携して指導できるよう、連携調整に努めています。

学級活動における食に関する指導では、1学年「朝食」、2学年「スポーツと栄養」、3学年「受験期と食事」という内容で学級担任と連携して指導を行っています。また、給食時における食に関する指導では、生徒がその日の給食を目の前にし、献立を生きた教材として活用した指導を行うことができます。心がけています。



ほかにも、生徒会活動として、給食委員会の活動の中で、各学級の残量や、時間を守って準備ができているか、後片付けがしっかりできているかなどの確認を行い、給食委員会の生徒が各学級の給食日誌に記入しています。毎月、給食委員会の生徒がよくできていた学級を給食の時間に放送で発表し、学期ごとに表彰を行っています。生徒が主体となり、呼びかけや活動を行うことで、生徒同士の意識が高まり、学級をよりよくしようとする意識がさらに高まるのだと感じています。

【笠間市としての取組について】

笠間市内の取組として、毎年5月に全校対象とした食生活アンケートを行い、朝食摂取率や給食に対する児童生徒の意識調査、給食の食べ残し割合などの把握を行い、小中学校や地区ごとの実態に応じた食に関する指導を進めています。また、この調査結果をまとめた「笠間っ子だより」を各家庭へ配付し、家庭や地域への情報提供に努めています。

献立においては、毎月、茨城県の地場産物を活用した「茨城をたべよう献立」や、2013年に和食がユネスコ無形文化遺産に登録されたこともあり、和食の重要性について重点を置いた「日本型食生活献立」など、市内全校で同一献立が提供される日を設けています。また、今年度11月の地場産物活用週間には、市の農政課やJA、地域の農家の方々と連携し、笠間市の地場産物を豊富に活用した「笠間の日献立」を提供しました。



【栄養教諭として】

成長期である児童生徒にとって、心身の健全な発達のため、栄養バランスのとれた食事を提供することはもちろん、将来にわたり健康の保持増進を図る上で、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることが大切になります。これからも、栄養教諭として、自己研鑽を重ね、日々子どもたちと向き合いながら、職務に励んでいきたいと思っています。

噛む・飲み込むが難しい人のためのかんたんレシピパンフレット作成について

在宅療養者や居宅要介護者の栄養・食生活支援の一助として、『噛む・飲み込むが難しい人のためのかんたんレシピ』を作成しました。

ワーキング会議では、先ずパンフレットの構成について検討した後、学会分類2013を基本に対象者の状態を想定し、“活用できるパンフレット”に焦点を当て作業を進めました。「使用商品は購入しやすさを考慮して。」「料理は簡単にできるもので。」「低栄養が問題。たんぱく質やエネルギー量が確保できる美味しいおかずを。」等、飛び交う意見が整理され内容がまとまりました。また、薬局に対する栄養ケア調査から得られた介護食・嚥下食等の取扱状況を参考に、市販品の組合せやソースのバリエーション等の試作を何度も重ね、レシピを例示しました。

会員の皆様には、居宅要介護者等への訪問栄養食事指導をはじめとする栄養・食生活支援の現場において、対象者の摂食・嚥下の状態に合わせた食事の提案～商品例から料理例を通した具体的提案～を行う際の実用書として、介護食・嚥下食活用マップとのセットで、ぜひご活用いただきたいと思ひます。

このパンフレットが、在宅療養者等を支えるご家族の皆様へ、毎日繰り返される“食事”のヒントとしてお役に立てることを願っています。

最後に、資料及び商品サンプルの提供にご協力頂きました賛助会員の皆様にお礼申し上げます。

(文責 渡邊 直子)

新入職員紹介

昨年10月から高野佑子さんが入職され、会員管理や会計管理などの業務を担当していただいております。

これからもよろしくお願ひいたします。

(文責 関 清美)

介護食・嚥下食取扱薬局情報リーフレット

在宅療養者や居宅要介護者に対する栄養ケアにおいては、低栄養の予防、疾病の発症及び重症化予防、介護度の重症化予防が重要であり、在宅で容易に活用できる介護食・嚥下食等の情報に対し、ニーズがありました。しかし、県内で介護食・嚥下食等を取扱っている薬局の情報は把握できていない状況でした。そのため、連携ワーキンググループでは、「在宅療養者や居宅要介護者のための介護食・嚥下食取扱薬局情報」を医療圏ごとに調査し、マッピングしたリーフレットを作成しました。すでに、介護食・嚥下食等の情報を必要とする医療施設・福祉施設・地域包括支援センター・取扱薬局等へ、リーフレットを配布しております。また、茨城県栄養士会事務局にも設置してあります。在宅療養者や居宅要介護者のよりよい食生活を支援するために、会員の皆様にも活用していただくようお願いいたします。

(文責 中崎 陽子)

(表面)



(裏面)

医療圏	薬局名	住所	電話番号	介護食	嚥下食	アレルギー	低栄養
水戸保健医療圏	水戸市立中央病院	〒320-8501 水戸市中央1-1-1	027-227-1111	○	○	○	○
	水戸市立東病院	〒320-8501 水戸市東1-1-1	027-227-1111	○	○	○	○
	水戸市立西病院	〒320-8501 水戸市西1-1-1	027-227-1111	○	○	○	○
	水戸市立南病院	〒320-8501 水戸市南1-1-1	027-227-1111	○	○	○	○
宇都宮保健医療圏	宇都宮市立中央病院	〒328-8501 宇都宮市中央1-1-1	028-227-1111	○	○	○	○
	宇都宮市立東病院	〒328-8501 宇都宮市東1-1-1	028-227-1111	○	○	○	○
	宇都宮市立西病院	〒328-8501 宇都宮市西1-1-1	028-227-1111	○	○	○	○
	宇都宮市立南病院	〒328-8501 宇都宮市南1-1-1	028-227-1111	○	○	○	○
	宇都宮市立北病院	〒328-8501 宇都宮市北1-1-1	028-227-1111	○	○	○	○
	宇都宮市立南西病院	〒328-8501 宇都宮市南西1-1-1	028-227-1111	○	○	○	○
	宇都宮市立北西病院	〒328-8501 宇都宮市北西1-1-1	028-227-1111	○	○	○	○
	宇都宮市立南東病院	〒328-8501 宇都宮市南東1-1-1	028-227-1111	○	○	○	○
	宇都宮市立北東病院	〒328-8501 宇都宮市北東1-1-1	028-227-1111	○	○	○	○
	宇都宮市立南東病院	〒328-8501 宇都宮市南東1-1-1	028-227-1111	○	○	○	○

あらゆる栄養指導業務に携わる皆様の「伝えたい」が「伝わる!!」
栄養指導フードモデル

指導目的に合った「伝えたい」が「伝わる!!」
 指導用フードモデルが盛りだくさん!

無料でお家でござるよ~

食育SAT(サット)システム 好評発売中!
 新カタログ(無料)のご請求は 下記営業所またはインターネットで!!

株式会社 岩崎 茨城営業所 〒300-0033 茨城県土浦市川口1丁目7番19号
 TEL:029-826-2777/ FAX:029-826-2778

研 修 会 報 告

第6回定時総会・研修会

5月25日

茨城県立県民文化センターにて総会（平成28年度事業報告、平成29年度事業計画、役員改選等の議事）が開催されました。

研修会は、茨城県保健福祉部長寿福祉課から「茨城型地域包括ケアシステムの構築に向けて」について講演を頂きました。また、日本大学歯学部摂食機能療法学講座教授 植田耕一郎先生による「おいしく、楽しく、美しく栄養を活かす口腔機能」についての特別講演があり、栄養を活かす口腔機能について今後の指導で生かしていくなど有意義な情報を得ることができた1日でした。

新任栄養士研修会

8月3日

茨城県立健康プラザにて35名の参加がありました。保健指導、栄養指導に役立つため食コーチングプログラムスの影山なお子先生から「健康を考えるコミュニケーションとは」についての講演がありコミュニケーションの取り方では、話し方や話の広げ方等が参考となりました。その他、各専門委員会会員がアドバイザーとなり、グループワークを行いました。グループワークでは「職場の課題や栄養アセスメントにおける地域と栄養士の関わり方」のテーマでグループ毎に意見を出し合い、職域の異なる話が参考となり、自分の業務での課題が見えてくる等良い情報交換の場となりました。

生涯教育研修会

9月16日、10月9日、11月23日

茨城県看護協会にて9月16日の研修会は38名の参加がありました。日清オイリオグループの渡邊慎二先生による「古くて新しい中鎖脂肪酸を知ろう」では、中鎖脂肪酸の摂取の仕方やMCTの有効性を学び、今後の指導に生かしたいという意見もありました。

また、独立行政法人国立病院機構相模原病院小児科医師 小倉聖剛先生から「小児の食物アレルギー」の講話があり49名の参加がありました。アレルギーについて、正しく診断される病院での受診の大事さや負担を軽減し安全な給食の提供について再確認ができた。また、アレルギーを確定するため食物負荷試験の重要性を理解することができました。

茨城栄養学術講習会

12月10日

茨城県看護協会にて、62名の参加があり、講師として茨城県立中央病院茨城県地域がんセンター腫瘍内科部長 石黒慎吾先生による『がん医療を支える栄養士「あと一步」～多職種連携において期待されるその役割～』では、がん治療の流れや治療法について理解ができた、職場でどう生かしていくか等の意見がありました。また、パネルディスカッション「医療・福祉施設・地域でのがん患者に対しての取組み」では、実体験に基づいた講演が参考になった、様々な場所で栄養士の活用が必要と感じた等のように栄養管理をすれば良いのか改めて考える良い機会となりました。

（文責 木村 善枝）

みんなで声掛け、仲間を増やそう

会員の皆さん、本会会員数が年々減少していることをご存じでしょうか。退会者数が新入会員数を上回る残念な状況です。毎年、対応策を講じていますが、やはり皆さんから未加入の方への「声掛け」は効果があると感じています。私自身、未加入だった職場の同僚に入会のお誘いと共に、無料受講券を活用して研修会に行きましようとして声を掛け、入会に繋げることができました。ぜひ、皆さんも周りにいる未加入の方に入会の声掛けをお願いします。

平成30年度入会分より、入会案内をリニューアル致しました。表紙のイラストは加藤理事のご友人が描いてくださいました。こちら入会勧誘に活用く

ださい。

最後になりますが、継続会員である皆さんが会活動に対し、ご支援ご協力いただいていることに深く感謝申し上げます。 （文責 山口 雅子）

編集後記

秋の長雨と48年ぶりの寒波のため、冬野菜の高騰が続いています。

さて、介護食や嚥下食についての情報をまとめたパンフレットが出来上がりましたので、栄養ケアにぜひご活用ください。

また、今号と次号で、各専門研究会の職場紹介コーナーを設けました。ご感想をお寄せいただければ幸いです。 （文責 関 清美）